

## 食のリスクコミュニケーション意見交換会（高松）概要（未定稿\*）

1. 日 時：平成16年1月30日（金）13：30～17：00
2. 場 所：（財）香川県社会福祉総合センター・コミュニティホール（高松市）
3. 主 催：内閣府食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省  
共 催：独立行政法人農林水産消費技術センター岡山センター
4. 参加者：151名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
5. 議 事：
  - 基調講演
    - 「安全な食品・危険な食品」（60分）
    - 唐木 英明 東京大学名誉教授
  - パネルディスカッション（60分）
    - 「食の安全新時代 ～どうしたら食のリスクは低減できるのか～」
    - <進 行>
    - 寺田 雅昭 食品安全委員会委員長
    - <パネリスト（50音順）>
    - 泉川 誉夫 四国新聞社編集局次長
    - 唐木 英明 東京大学名誉教授
    - 北川 博敏 香川短期大学 学長
    - 近藤 威之 J A 香川県営農経済事業本部常務理事
    - 佐々木謙二 香川県製粉製麺協同組合専務理事
    - 田井有紀子 香川県消費者問題懇談会委員
    - 小泉 直子 食品安全委員会委員
    - 外口 崇 厚生労働省大臣官房参事官
    - 姫田 尚 農林水産省消費・安全局消費者情報官
  - 会場との意見交換（65分）

### 6. 概 要

#### <パネルディスカッション>

泉川： 消費者の「ゼロリスク神話」に偏った報道になりやすい面がある。多様な情報を提示して、あとは読者の判断に任せるのが通常である。調査報道の割合は少なく、何か事件が起こった時に報道することになるので、必ずしもその分野に詳しい記者が取材するとは限らない。専門記者を育てることも考えなくてはならない。また、読者からの抗議や指摘も大事にしたい。

唐木： 行政の一方的説明は双方向に変えていかななくてはならない。相手の言うことに同意できなくても、相手が何を考えているかを理解することが大事である。

---

\*本資料は、各発言者など出席者による確認を経ていない未定稿であり、今後修正の可能性がある。

北川： 高松市が実施した調査では、小学校4年生に生活習慣病が見受けられる。国民の置かれている実態を良く見ることが大切である。生活習慣病の予防には果物・野菜が重要であるが、先進国の中では日本だけ消費が減っている。農薬に対する不安もあると思われるので、科学的な根拠に基づいて判断していくことも重要である。

近藤： 栽培方法に関する厳守6項目の誓約書を作成し、組合員に署名させている。直接利益には反映されなくても、外部業者に委託して残留農薬の調査を行っている。作った作物については責任を持つという生産者の意識向上が大切である。検査、取締りだけではなく消費者との信頼関係を大事にしていきたい。

佐々木： うどんは基本的に熱処理をしているので安全性は問題ない。うどんの生産については県内より県外発送の需要が多く、HACCP手法を導入するなどして品質管理し、自主基準も作成している。

田井： 消費者自身の勉強不足も問題である。消費者、業者、行政でもっとコミュニケーションをとることが大切である。小売がJAS法を遵守しているなどとアピールをしてくれば消費者もそのような制度があることを自ら学ぶことができる。

#### <会場との意見交換>

審議の途中経過の情報発信の仕方を考えてほしい。ホームページに載せるだけでなく、もっと情報入手しやすいようにしてもらいたい。

マスコミの報道では、悪いことはすぐ広まるが、良いことは広まらない。マスコミは良いこともアピールしてほしい。

子供が親になった時、今のような食生活を送れるか心配である。食品添加物など合成食品を長期摂取しても発癌性の確立が低いのはわかったがまだ不安が残る。

- ・ 食品添加物など化学物質が悪く言われることが多い。化学物質である医薬品は体に影響のあるレベルで使われる一方、同じ化学物質である食品添加物は体に影響のないレベルで使用されている。
- ・ 日本の消費者は、野菜や果物に虫のついていない欠けていない芸術品を欲しがる傾向がある。農家は散布者本人が一番危険なことを知っているので仕方なく散布しているのが現実である。

新聞は継続性のある地域の企画をやってほしい。消費者は、リスクを個人個人の事と捕らえているので、リスクの対象は個人だと認識してほしい。確立が少ないから安全だとは承知し難い。リスクコミュニケーションに流通の立場の方を加えてほしい。

BSE事件で、牛は草ではなく肉(骨粉)を食べていたことにショックを受けた。自分の見えないところで起きていることに不安を感じる。

(参考)

## 「食のリスクコミュニケーション意見交換会(高松)」

### アンケートの集計結果

参加者数：151名 回答数：94名(回答率：62%)

問1 ご自身について、ご解答ください。

1) 消費者	18	19.4%
2) 食品関連事業者	13	14.0%
3) 食品関連団体	5	5.4%
4) 研究機関	3	3.2%
5) 行政関係	44	47.3%
6) マスコミ関係	0	0.0%
7) その他	10	10.8%

食生活改善推進員、栄養士、看護師など

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会ホームページ	9	9.1%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	19	19.2%
3) 関係団体からのご案内資料	49	49.5%
4) 知人からの紹介	8	8.1%
5) その他	14	14.1%

新聞など

問3 基調講演についてお伺いします。講演内容について、十分理解することができましたか。

1) 理解できた	46	48.9%
2) だいたい理解できた	44	46.8%
3) あまりできなかった	4	4.3%
4) できなかった	0	0.0%

附問3-1(問3で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した方)

内容がわかりやすかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明が明瞭で的確だった	65	53.7%
2) 資料内容が平易でわかりやすかった	36	29.8%
3) 適切な説明時間が確保されていた	11	9.1%
4) その他	9	7.4%

- ・斜字は少し見にくい。
- ・資料の内容よりももっと詳しくしていただけたら(OHPと同じものを)。
- ・プリオンがダメだと言ったが、異常プリオンがダメではないか。
- ・パワーポイントの資料を印刷していただければよかったです。
- ・説明に専門用語が多い。
- ・資料が分かりにくい。
- ・事前に大体のことは理解していたので。
- ・明らかに「行政寄り」だとわかりました。

附問 3 - 2 (問 3 で「あまり理解できなかった」「できなかった」と回答した方)  
 内容がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明に専門用語が多い	2	40.0%
2) 資料がわかりにくい	2	40.0%
3) 聞き取りにくい	1	20.0%
4) 適切な説明時間が確保されていなかった	0	0.0%
5) その他	0	0.0%

問 4 パネルディスカッションについてお伺いします。内容について、十分理解することができましたか。

1) 理解できた	26	29.2%
2) だいたい理解できた	54	60.7%
3) あまりできなかった	8	9.0%
4) できなかった	1	1.1%

附問 4 - 1 (問 4 で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した方)  
 内容がわかりやすかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) パネリストの異なる立場での意見を聞くことができた	57	71.3%
2) 説明が明瞭で的確だった	15	18.8%
3) 適切な説明時間が確保されていた	4	5.0%
4) その他	4	5.0%

- ・議論がすすんだ
- ・パネリストの選定には疑問がある。また適切な説明時間が確保されていなかった。
- ・もう少し一人の持ち時間があればよかった。
- ・専門用語が多い。

附問 4 - 2 (問 4 で「あまり理解できなかった」「できなかった」と回答した方)  
 内容がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明に専門用語が多い	2	18.2%
2) 聞き取りにくい	1	9.1%
3) 適切な説明時間が確保されていなかった	4	36.4%
4) その他	4	36.4%

- ・皆バラバラです。前もって打ち合わせはしていないのですか？
- ・時間の都合でパネラー自身の立場や主張を説明したことに終始したのが残念。
- ・内容が自分の中で納得することができなかった。
- ・時間が短いので、パネラーの意見・意思が伝わってこない。

問 5 本日の意見交換会全体についてお伺いします。満足度とその理由をお答えください。

1) 満足	11	14.7%
2) だいたい満足	53	70.7%
3) やや不満	9	12.0%
4) 不満	2	2.7%

<理由>

- ・それぞれの立場での意見を聞くことができ、勉強になりました。(6)
- ・やはり質疑時間をもっととってほしい。(3)
- ・JA様の代表者の方が話しをしていましたが、最近のJAのイメージは農業・生産というように考えられない。保険や銀行のようなイメージなので、あまり話などもピンと来ない感じがする。あと、意見交換ができていない。
- ・専門用語が多い。

- ・進行役の方が明確に言葉を発していないときがある。進行をもう少し上手にしてほしかった。パネリストの方々の話しは色々よく分かった（特に北川先生）
- ・食生活について、どう考えているかの質問に対して、何人かのパネリストが質問の返答をしていない（はずれの回答のように思う）。
- ・つまらない事ですが、イスが窮屈で疲れた。もっと広い会場が良い。
- ・学者・行政・生産・消費全てが一度に聞くことによって、現在の方向がわかりかけた。
- ・食生活推進員としてよい勉強になりました。
- ・消費者の意見をもっと聞きたかった。行政としては意見しにくかった。しかし活発な意見交換ができていたと思う。
- ・もう少し時間をかけて、話し合いが必要
- ・常に私達の団体がモットーとしている事、また活動している事をより深く掘り下げて意見を聞くことができ満足です。出席させて頂いてよかったです。
- ・時間・内容に満足していますが、具体的な意見の交換があればよかったですと思います。
- ・生産者・消費者、また他の立場からの視点を詳細に、かつ確実な資料をもとに会が進められていると思う。
- ・質問者の背景が偏りすぎ。入場者の背景も偏っているのかと思う。
- ・色々な立場の方々が意見を述べられる中、少し立場を忘れて対話ができればと思います。しかし大きな一歩前進になったような気はしました。
- ・時間的にもよく、内容なども理解できた。
- ・最近の情報を知ることができ、勉強になった。しかしその情報も選択、正しい情報を知りたいと思った。
- ・会場との意見交換の中で、消費者の考えとその対応が参考になったため、大変面白かった。
- ・それぞれの立場での意見、専門的・科学的な説明がなされ、相互理解がなされた
- ・会場からかなりの広い意見が出て、その回答を含めて有意義であった。
- ・専門的な立場からの意見かなという気がしていたが、最後に家庭での食生活が垣間見れて良かったです。
- ・パネリストは自分の立場の説明はうまくても、本当に困っている消費者の健康を何とかしようとか、生産者の苦勞に思いをはせて発言しているように思われなかった。
- ・パネリスト各人が意見を持っていないで参加している。消費者代表が消費者の立場の意見を出して欲しかったです。
- ・食の安心安全についていっそう関心が深まった。
- ・評価する側として、今出回っている食品は安全で、危険なものは制度で防止すると言われていましたが、やはり今あるデータだけでは安心できません。もっと情報が欲しいので、この会に出席しました。もっと情報を発信していただきたかったです。
- ・意見内容に片寄りがなかった。
- ・本日の会の内容を知らずに参加したのですが、主催が大きいのに大きな会場で多くの人に呼びかけたらいいと思った。
- ・中央と地方の意見交換をすることが大変有意義でした。

問6 今回の意見交換会についてご意見・ご感想などございましたら、ご記入ください。  
また、リスクコミュニケーションに関するご質問・ご意見などもございましたら、あわせてご記入ください。

- ・国民善互い知識を高める必要あり。（行政・業者・消費者・マスコミ）
- ・今日参加した方々だけでなく、もっと多くの人々、もっと多くの一般消費者に向けて、このような情報をマスコミなどが発表すべきである。
- ・時間を多く。
- ・主婦で参加しているので、終了時間が遅いのは大変困ります。帰宅時間が遅くなると夕食のこしらえに響きますので考えてください。
- ・フロア-の人たちも積極的に質問があり、活発な意見交換がなされ参考になった。

- ・ 栄養士会からの連絡で知りましたが、日が急で出席したい栄養士も沢山おります。もう一ヶ月でも早く分かれば仕事の調整がついたと思います。リスクコミュニケーションではなく、もっと日本語で身近な言葉はないのでしょうか。パネリストの人数をもう少し絞ってもいいのではないのでしょうか。消費者を増やしてください。食の危機感は皆感じているけれど、どう行動してよいかかわからないと思う。開き直ってしょうがないと思い食生活を営んでいる。
- ・ 会場の意見（質問）をもっと多くの人にたずねることができれば、より多様な考え方がコミュニケーションできるのではと思います。
- ・ まだまだ理解している点があることが分かったので良かった。今後流通関係者もいれてコミュニケーションをとって欲しい。
- ・ 消費者側の意見が少なすぎる。もっと多くすべきだ。改善すべきこと、本日の話しは「問題がない」と意識させられる内容だった？層だとすれば、マスコミを通じて強く消費者に対して流してみてもどうか。
- ・ パネリストの人数をもう少し絞って欲しい。
- ・ 食品安全委員会の委員の選任はどのように行なわれるのか。食糧危機が予測される中で、一人当たりの摂取量のリスクもさることながら、量的確保と危害の大きさとの相関はどうか（例えば中国一國に偏った供給）。食品流通は食の安全にかかわる部分が大いと思う。例えば、形や大きさ、色、その他の品質が安全性よりも評価され、安全な食品の流通を阻害しているのでは。
- ・ リスクコミュニケーションの手法については行政として頭を悩ませています。人をいかに集めるかが自治体としては問題です。インターネットの活用以外のよいコミュニケーションの手法（こういった意見交換会）を実施したいと思っており、勉強になりました。
- ・ 一般消費者向けに意見交換会を開くなら、土日が良いと思う。
- ・ 農家組合員に誓約書を出させて、より安全な作物を出荷するようにお聞きしましたが、実際には出荷の間に農薬をしっかりとかけられている様子も見かけます。JA青果連さんもよく指導をしてくださればよいかと思います。
- ・ まだまだ意見交換会での意見が、国に対して反映されていないと思います。積極的にアプローチしていただきたい。
- ・ ぜひ以下の質問にお答えください。食品安全委員会の審議は農水・厚労からの要請を受けて始められるようですが、リスクコミュニケーションから吸い上げる（一般から受け付ける）ことはできませんか。
- ・ 消費者など、行政以外の意見が聞け、参考になった。
- ・ 地方で消費者のこのような機会があまりなく、今後このような意見交換会を希望します。
- ・ 食品関係に勤務しているが、家庭では果実・野菜などの生産者でもある。生産から消費までの間で、流通業者の介入が産物に対する消費の解釈・理解・認識を、本来のものとは異なったように変えることが多くあるように思う。生産者としては、直接消費者に届けたいし、消費者（大量調理）・関係業者としては直接得られるようになって欲しい。
- ・ 辺縁系と全頭連合野が交錯して、やはり話しを聞いても不安なこともあるが、これから仕事の面で活かせる内容は沢山あったと思うので、是非活用したいと思います。
- ・ 参加者が非常に少ない。満員にする努力を。食品安全委員会に消費者代表を入れなくて、消費者の意見を尊重すると言われても現実味が少ない。本気に食品安全に取り組む行政組織とは思えない。今回の消費者代表も自分で不勉強を強調し、消費者が持っている安全性への疑問を強く発言していない。もっと消費者の声を代弁できる人を選ぶべきである。「農薬は安全だ」とパネリストは言うが、実態を見ていないか、見ようとしていないかと思う。食品添加物や農薬残留は安全だという小泉さんは、何を根拠にそのように言っているのか。飼料への抗生物質の添加、除草剤の濃縮残留、食物連鎖などの多くの学問的知見を無視している。
- ・ パネリストと消費者の考え方の隔たりがあると感じた。
- ・ 基調講演は明確ではあったが、内容的に満足できるものでなかったのが残念でした。今後参加者それぞれが発展的な活動ができる助けになるような意見交換会が行なわれるこ

とを期待しています。

- ・リスクコミュニケーションという言葉そのものが難しくて分かりにくい。よい日本語にすべきだと考える。一般消費者に受け入れられるとは思えない。
- ・少し時間の関係でテーマを絞り込んで欲しい。
- ・大手食品業者のパネリスト参加が望まれる。
- ・農家指導に携わっています。「農薬を適切に使いましょう」、「使ったときは正しく記録を残しましょう」と指導しても、基準どおりに使っているからといって消費者は安心してくれるのかが不安です。適切に使用された農薬は安全だと正しく分かりやすく消費者へ伝え、理解してもらうことが大切で、本気でやらないと生産者の努力は報われないと思います。
- ・パネラーに女性を採用して欲しい(40%以上)。科学者にも女性はいらっしゃると思いますが。
- ・食品の貿易の自由化はしていくべきだと思っています。その上で、今回もそうですが自由化をする時の安全確保をするための体制作りと、他の面から見て国内産業にも目を向けた場合の国内農水産業の育成というものを平行して行なう体制作りをして欲しいと思います。そして自由化された市場の中で、何を選ぶかは消費者自身ですので、個人の価値観で何を選ぶかは自由だと思います。消費者教育ができる場が、国民に近い市町レベルであればもっと良いのではとも思います。意識の高い消費者は自ら情報を求めるとしますので、常に何かの形で情報発信だけはしてほしいと思います。
- ・唐木先生のお話しは的確で非常によく理解しやすく、参加してよかったと思わせてくれるものでした。食に関してあまり神経質になる必要もないと(洗脳)思わせてくれました。ただ一番心配なのは食の栄養を気にせず、料理をしない人類が問題だと思います。
- ・もっと広く生産者・学者などを集めて交換会を開いて欲しい。
- ・消費者に対してどのような方法でリスクコミュニケーションを取れば分かってもらえるのか、日々苦労しています。

問7 今後、食品安全委員会におけるリスクコミュニケーションとして行ってほしい取り組みは何だと思われますか。当てはなるものを全てお答えください。

1) 今回のような意見交換会の積極的な開催	35	19.1%
2) 食品安全に関する平易で基礎的な勉強会の開催	41	22.4%
3) 参加者全てが発言できるような、少人数の座談会の開催	17	9.3%
4) 各層有識者を交えた、シンポジウムの開催	14	7.7%
5) 消費者、生産者、事業者が意見をいつでも言える窓口の設置	38	20.8%
6) 地方における意見交換会の開催	34	18.6%
7) その他	4	2.2%

- ・流通業者・医者を加える
- ・広く行なってほしい。
- ・ジャーナリスト・教育者の理解を深めるように努めて欲しい。
- ・インターネット利用による意見交換会

問 8 今後の意見交換会で取り上げてほしいテーマは何ですか。当てはまるものを3つまで下記の解答欄に番号でお答えください。

1) 残留農薬に関するテーマ	26	11.6%
2) 食品添加物に関するテーマ	27	12.1%
3) 遺伝子組換えに関するテーマ	25	11.2%
4) 食品中に混入する汚染物質に関するテーマ	17	7.6%
5) 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)に関するテーマ	21	9.4%
6) 有害微生物に関するテーマ	13	5.8%
7) 輸入食品に関するテーマ	27	12.1%
8) 食品表示に関するテーマ	41	18.3%
9) リスクコミュニケーションに関するテーマ	27	12.1%

附問 8 - 1 取り上げてほしいテーマとして選択された理由を次の中からお答えください。

- ア) 食品を選ぶ際の基準にしたい    イ) 専門家の意見を聞いて理解を深めたい  
ウ) 現在の活動に生かしたい

	ア)	イ)	ウ)
1) 残留農薬	6	9	9
2) 食品添加物	8	9	6
3) 遺伝子組換え	6	12	4
4) 食品中の汚染物質	4	9	2
5) 動物用抗菌性物質	2	12	2
6) 有害微生物	1	6	5
7) 輸入食品	17	14	9
8) 食品表示	10	7	18
9) リスクコミュニケーション	1	19	14

問 9 このような意見交換会にご参加していただきやすい開催日時は、いずれですか。

1) 平日の午前	12	14.0%
2) 平日の午後(1~5時頃)	47	54.7%
3) 平日の午後6時以降	3	3.5%
4) 土曜日の午前	2	2.3%
5) 土曜日の午後(1~5時頃)	17	19.8%
6) 土曜日の午後6時以降	1	1.2%
7) 日曜日・祝日の午前	1	1.2%
8) 日曜日・祝日の午後(1~5時頃)	3	3.5%
9) 日曜日・祝日の午後6時以降	0	0.0%

問 10 ご自身の食生活について教えてください。

- ・必ず賞味期限とか加工食品の表示、生産地、生産者を確認している。(9)
- ・子供が小さいので、アレルギー表示に気をつけている。私もアレルギーがありますので(芋など)気をつけている。台所廻りの殺菌、洗浄、消毒にも気をつけている。
- ・加工食品は表示を確認する。食中毒を防ぐために加熱、洗浄を充分にする。
- ・製造年月日、賞味期限を必ず見る。食品添加物表示を見て、できるだけ少ないものを選ぶ(添加物の性質がわからないから「種類が少ないから安心」と必ずしもいえない点が不安)
- ・賞味期日のもう少し大きな表示。

- ・塩分などをとりすぎているので、野菜を多く食べることにしている。
- ・食の安全委員会のPRならびに広報の強化。
- ・電子レンジの使用はほとんどしない生活。なるべく添加物の少ない食品を選び、外食よりも手作りをとしています。
- ・極力加工品は買わない。手作りをモットーとしている。子供の時の味覚の大切さ。塩分を控える。体にいい料理情報などを知人友人にお伝えする。
- ・子供の時の健康寿命の大切さ。毎食の献立作り（バランスよく食べるようにしている）。加工品を買うときには添加物が少し気になる。
- ・背の青い魚、緑黄色野菜を一日一回必ずとる。家族の食事は手抜きしないをモットーにしている。
- ・TVマスコミなどの洪水のような情報に惑わされないで、しっかり考え食生活を築いていきたいと思っています。腹八分目にする。ゆっくり食べる。地産地消で選びたい（消費者が完全な食品を選んでいてではない）。
- ・少量多品目の食事を心がけていますが、多少飲みすぎ。食の注意の意味が半減。反省しています。
- ・野菜を多く取る。
- ・何でも食べる。
- ・自家菜園の野菜（季節のもの）が食べられる。加工食品表示は見るようにしている。気になることは天然物以外の魚の「エサ」は大丈夫か（おいしくないと感じている）。
- ・単身赴任中（3年目）のため、可能な限り多様な食品をとりたい。
- ・食生活推進員をしているので基礎的な知識はあるが、最近は思いがけない危機事態が発生するので、常に勉強をしなければならないと思っている。
- ・自分の健康は自分で守るために、1日30品目を食べるように気を配っています。また、体に合った運動は毎日続けています（ウォーキング・自転車など）。
- ・加工食品は避けて、自分で作る。
- ・生レバは食べない。
- ・生食はできる限り食べないようにしている。
- ・食生活は20～30年後の自分自身の大切な糧であります。毎日忙しい中、昼食はいつもあわただしく食事をとっているのが現状です。楽しく適量を食べることが大切だと思います。栄養士の立場から、高校生を対象とする職場でどうしても食の安全性について強く消費者の方からの要望がありますが、職のリスクコミュニケーションに参加し、外国の例も含め、食堂内においても理解してもらえるように提示してみようと思いました。情報の提供の大切さを感じ、勉強になりました。対話交流の大切さを感じました。
- ・健康日本21、健やか香川21の中にうたわれている事を実践。中でも3・3・30運動に気をつけ、できるだけ地元で取れたものを使うようにしています。
- ・情報に過剰反応せず、バランスよく食品を摂取している。
- ・生野菜を食する場合、産地・肥料・農薬などの記載を注意している。
- ・肉をあまり食べない（脂っこいから）。
- ・食の安全について、これからの生活に役立てていきます。ありがとうございました。次の会について、これから記事にしてください。
- ・食中毒（カビなど）
  - ・野菜は産直のものをできるだけ買うようにしている。片寄った食べ方はしない（浅く広く食べる）。健康食品は食べない。
- ・無農薬有機農産物とそれの加工品を中心に食するようになっている。
- ・スーパーなどで食品を購入する際には表示を確認して、できるだけ添加物の少ないものや重要な危険物が入っていないものを選ぶ。地産地消を心がけ、輸入品は購入しない。自分で作れるものは自分の手で育て、購入するときはなるべく生産

者が分かるところから購入する。

- ・ バランス（栄養・リスク・価格など総合的に）  
とにかく野菜を多くするような献立を立てる。 消泡剤、亜硝酸ナトリウムなどが入っていない食品を選ぶ。
- ・ 生活習慣病の予防（カロリーと栄養バランス）
- ・ 自然のものを食べるようにしている。インスタント、合成保存物、輸入食品はできるだけ使用しないようにしている。
- ・ 肥満（カロリーの取りすぎ）に気をつけている。
- ・ 遺伝子組換え食品は口にしない。
- ・ バランスの取れた食事をする。 好き嫌いをしない。
- ・ 自家の食生活は全て妻にまかせています。私自身が食品行政に関係しているので、食品の購入には十分留意しているようです（期限表示の確認、保存方法の良否、生食用の鮮度など）。
- ・ 食中毒には気を使って加熱していますが、何を信じていいのかが分からないほど多様なマスメディアで、自分を信じて生活するしかないと思ってしまう。
- ・ 毎日3食必ず食べる。 1日30品目を目標に食べる。